

天使のにもっ

(第一回)

いとろみく
カタントモコ絵



青空にむかって大きく伸びをした。

たっぷりと湿気をふくんだ、べたつくようなこの暑さが
風汰は好きだ。

もう一度、ぐんとからだを伸ばした。

パコン!

「いてっ」尻に手を当てると、甲高い声が背中であいた。

振り返ると、竹ぼうきを振りまわしながら二つの小さな背
中が、ウサギ小屋の向こうにひよいと消えた。

マジミスった。なんだってオレ、こんなとこ選んじゃっ
たんذارろっ。

——エンジェル保育園

目の前の看板に目をやって、ため息をついた。